

# 一般社団法人はらいふ 2021年度 事業報告書

人のつながりの中で、  
誰もが自分を生きられる社会を目指して



## 「自分で決める」を大切に。

子どもたち・保護者の方と  
試行錯誤した日々

フリースクールはらいふ4年目の報告書ができました。

おかげさまでフリースクールを始めるのとほぼ同時に生まれた娘も、ずいぶん達者にしゃべるようになり“あかちゃんのいるフリースクール”を名乗るのも卒業かな…という感じがしています。あいかわらず日々子どもたちを車で迎えにいき、料理をし、おしゃべりをし、どうでもいい話をして笑い合う。「いったい何屋さんなんだろう…？」と自分たちを笑いながら、子どもたちのリクエストに答えて、寿司を握り、ラーメンのスープを研究し、格安旅行を計画する。休みの日でも、れいちゃんとうのちゃんの間で、フリースクールに来る子どもたちの話をしない日はありません。そんな活動が続けられていることに応援して下さるみなさまに感謝の気持ちでいっぱいです。

2021年度のはらいふでは、進路選択のタイミングになる子がたまたま多く、日々の活動にプラスして面談や高校見学などをする機会も多かったです。

中学校までは行かなくても卒業できる。でも高校からは違う。果たして自分は、ちゃんと通えるのか、勉強できるのか、人間関係は…いろんな不安を抱える子がいます。

その時にも私たちがやっぱり大事にして欲しいのは「自分で決める」ということです。これまでは保護者の方がほとんど決めてきた。うまく自分の気持ちや意思を表現できない。そうした本人とも保護者の方とも一緒に試行錯誤をした時間でした。

世の中は依然コロナのニュース。子どもたちは我慢しているというよりは、様々な制限に「しかたないよね」と諦めることが内面化されてしまっているように私には見えます。自分の意見が反映されたり、何かを変えられたりする経験を、ちょっとでも感じてもらえたらなあ…と日々願いつつ、たまにそんな場面があったかな？どうか？というのが本当のところでは。

大阪府フリースクール等ネットワークの活動をはじめ、不登校やフリースクールについての発信や提案をする機会も増えてきました。“不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること。”という通知が文科省から出されていますが、そのための環境整備は不十分と言わざるを得ません。はらいふでもご相談を受けても、入会にあたってお待たせしてしまっている現状があります。なんとか不登校の子どもたちが過ごせる選択肢が増えることを願って止みません。

一軒家をつかった小さな活動ですが、出会ってくれた子どもたち・保護者の方と日々向き合いながら歩んでいきたいと思えます。

一般社団法人はらいふ 代表理事 木脇嶺



## フリースクールはらいふは こんな場所

自分たちが主役となって自由な時間を楽しめる場、あるいは、寄り添い、サポートされることで一人ひとりに合った学びの場を得られることを目指して活動しています。

多様な体験学習  
その他、本人の望むペース・内容での教科学習もサポートします。

「しなくてはいけないこと」はなにもありません。本人の意思を尊重した過ごし方を大切にしています。

なによりも、楽しく幸せな毎日過ごすことを大切にしている場所です。

主として不登校の10代の子どたちが安心して自由に学び・過ごすことのできる場所として、2018年6月に高槻市原にオープンしました。

活動時間は月・火・木・金の10:00～17:00。  
いつ来ても、いつ帰ってもOKです。また、自力での通学が難しい方には車での送迎を行っています。



2021年  
はらいふのハイライト

1月

スケート



3月

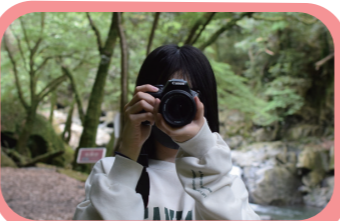
卒業式



フクロウカフェ



はらいふ写真部



5月

ボランティアによるお昼ご飯



2月

NEWS が原にやってきた



節分



利きコーラ選手権

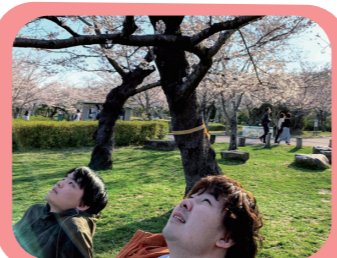


4月

カラオケ大会



花見



6月

アイスクリームドライブ

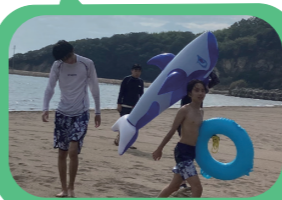


7月

デスマッチ巡り@河原町



海水浴



8月

夏合宿



ハロウィンパーティー

10月



ピザパーティー



12月

クリスマス会



草木染



11月

気配斬り



もちつき



# NEWS

## 【はらいふから過去最多の卒業生！】 「中学校卒業」に際して

2021年度、中学3年生が6名在籍していました。

はらいふでは、卒業（退会）時期についても「子どもによって自由」なのですが、わりと多くの方が中学校卒業を転機にされています。

「地域の学校ではなかったら、行けるかも」と府外の全寮制の学校に進学したり、「女子だけなら、全日制でも行けるかも」と女子校に進学したり、「はらいふに来て、少人数なら大丈夫そうと思えた」と通信制高校・サポート校を選んだり…。それぞれの選択肢に、はらいふの継続を付け足すことも出来ますし、心機一転とはらいふの卒業を選ぶ方もいます。

はらいふで自由と自己決定の日常を過ごしながら、「自分のことを、自分だけでなく一緒に考える」練習をして、その子らしい進路を選べるように、丁寧に準備をしていくことを大事にしています。

季節が進むごとに、子どもたちと一緒に色々と考えた日々を振り返りたいと思います。

### 中学2年生「秋の面談まつり」

3年生になってからのおおまかなスケジュールを共有します。

学校との日常的な関わりや兄弟がいない子どもや家庭にとって、進路の話はイメージしにくく、その割にプレッシャーが大きい話なので、「まだまだだけど」と言いつつゆるい予告をしておきます。

### 中学3年生「春の面談まつり」

・子どものその時点での気持ちやイメージと、保護者との距離感を確認します。

「通信制かなとは思っている」とか「○○ってとこかな」など、大まかでも考えていることが多いです。

また、保護者にも心配や事情があり、「親が決めなければ」と強く思っている方や、「家で本人にきいても返事をしません」とおっしゃる方もいます。ただ、それらの保護者の関与を子ども自身がどう思っているのかを確認します。

・はらいふのスタッフ、保護者、学校の先生などが、どのような役割で進めていくのが本人にとって無理がなさそうかを考えます。

### 年末～3月まで

- ・学校での三者懇談などで、最終的な志望校を確認される時期になります。
- ・それぞれの生徒の進路なども徐々に明らかになっていき、中2以下の子どもたちも進路を意識する機会になっています。
- ・新生活に向けて、生活リズムや外出機会、学習習慣を整えていくことを提案します。具体的には、週に何回来所するか目標を立てたり、「はら一ワーク」でプリント学習や志望動機などの作文に取り組んだりします。

※はら一ワーク

11～12時の1時間、「機会があったら」「誰かと一緒なら」と思うそれぞれのチャレンジをやってみる時間。学校のプリントや通信制高校のレポートなどの学習、みんなのお昼ご飯を作る料理、敷地内の畑作業、ボランティアの得意なことを教えてもらう英会話やマッサージ教室など。その日にいる子どもたちから取り組み内容を提案してもらい、選んでもらっている。

私たちは、中学校卒業後の進路は、子どもが自分で自分の生き方を選んでみる最初の一步ではないかと考えています。

自分に合ったものを選ぶためには、自分の興味関心はもちろんですが、できることとできないこと、サポートがあった方が助かることなどにも気づき、考えるというステップが出てきます。

これは、特に福祉や医療的な支援が必要な子にとっては重要なタイミングであると思います。そのようなケースでは、上記の流れの他に、保護者とのすり合わせ、学校や関係機関との情報共有、つなぎ先の調整などにも動いています。

高校を単に「進路先」と考えず、もし選んだものが「やっぱり合わなかったかな」と思えば、また違う方法も考えられるよう、子ども自身がその先への希望を持てる選択になるといいな、と思います。

### ある生徒の自己申告書より

私はフリースクールに行ってみるようになった。そこには様々な考えや事情をもっている人たちがいた。

学校に行きにくいという人だけでなく、体調が悪い、朝起きることができないなどの理由があったり、通信制の高校に通いながらや、入退院を繰り返している人もいた。普段は明るく振る舞っている人や気楽そうに見える人も多くの悩みを抱えていることもある。

このような経験から私は、人を見た目で判断してはいけないということを改めて実感したし、意見や価値観が合わない人でも相手の立場に立ってみて、一度立ち止まって考えられるようになった。

私は中学生の間に、いじめや不登校などのつらい経験をした。思い出したくない出来事だし、あまり人に話しにくい内容だと思っている。実際に久しぶりに会った友達や親戚に自分は不登校であることを打ち明けられなかったことが多くあった。

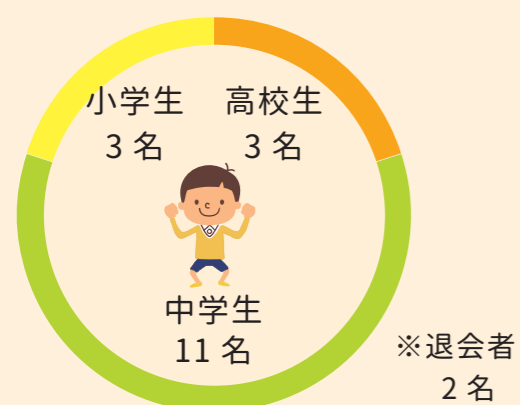
私はそんな自分の考えを変えたいと思っている。不登校を経験したから今の自分があるといつか思えるようになり、自分の経験を人に話せるようになりたい。

## 2021年度相談件数

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
新規相談件数	35件	42件	49件	64件
うち入会者数	11名	8名	5名	2名

## 生徒内訳

登録者数：17名（うち高槻市内生13名／市外生4名）



## 減免実績

2021年度寄付総額 1,053,628円

2021年度減免総額 1,389,000円  
(減額：1名／免除4名)

2018年度から、相談件数がずっと増えており、不登校の子どもの居場所、家族の相談に対するニーズも増えていると実感しています。

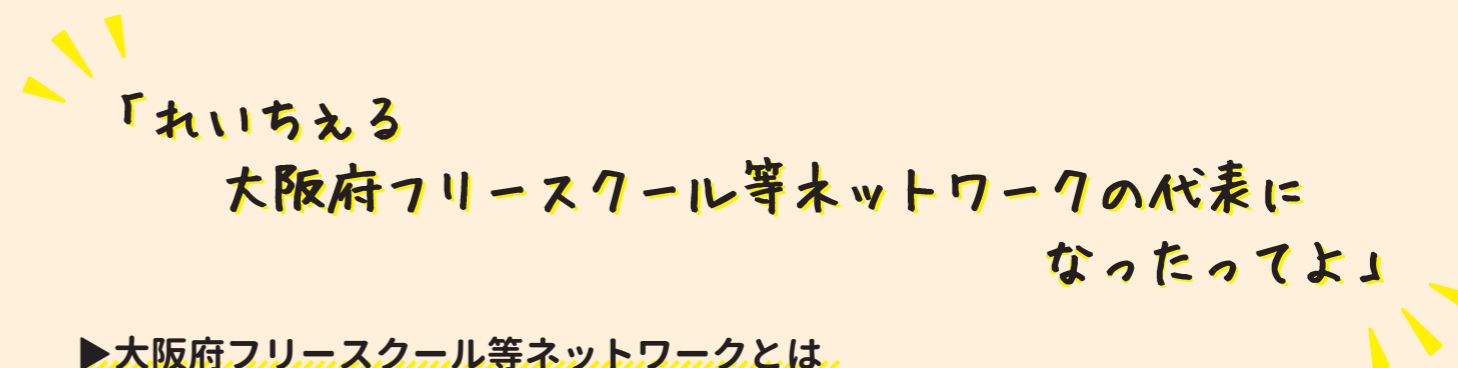
はらいふで行っている無料相談では、一人ひとりの状況に合わせて、その子や家族にとってより良い暮らしにつながるように、公的機関や他のフリースクールなどの情報提供をしています。

また、大変心苦しいことですが、フリースクールはらいふでは入会を希望して下さってもすぐには入会をご案内できず、キャンセル待ちをお願いしている状況です。通ってきている子どもたちの安心や安全、そのための保護者とのやりとり、関係している各機関との連携などを考えると、今のスタッフ体制で受け入れられる人数に限りがあります。地域にもっとフリースクールのような居場所が増えていくことを心待ちにしています。

ただ、現在フリースクールには公的な支援がなく、運営することがとても難しくなっています。

2020年度は、休眠預金等活用法に基づいた、新型コロナウイルス対応緊急支援助成の一つとして、セーブ・ザ・チルドレンとフリースクール全国ネットワークの二団体を介し、「コロナ禍で困難が増した不登校の子ども支援」というものがありました。条件に該当するケースについて、相談と月謝に対する助成金が利用できましたが、1年間という制限があり、継続的な運営や経済的に月謝を負担することが難しいご家庭の子どもを受け入れていくことには依然課題が残ります。

これからも、寄付についてより呼びかけや、助成金などの利用を考えていきたいと思っております。



## ▶大阪府フリースクール等ネットワークとは

不登校の子どもたちをとりまく社会環境を、よりよいものに変えていくためのネットワークです。大阪府下にあるフリースクールなどの民間団体が、学校や行政機関と連携することによって、子どもの権利保障と福祉の増進を目指します。

教育機会確保法によって、不登校支援においてフリースクール等の民間施設と学校が連携することは重要であること。学校復帰のみを目的とせず、社会的自立を目指すこと。フリースクール等で学ぶにあたって負担軽減のための財政支援を行うことなどが明文化されました。(※ちなみにフリースクールの設置基準などはなく、財政支援は現状極めて少数の自治体にしかありません。)

しかし、増え続ける不登校の子どもたちに十分なサポートができていない現実があります。必ずしも学校でなくていい…と言いながら子どもたちの学び育つ場の量も多様性も全く足りていないと感じています。子どもに関わる全ての大人が力を合わせて、学校へ行かないことによって起こる社会的不利益を解決しなければいけない時が来ています。

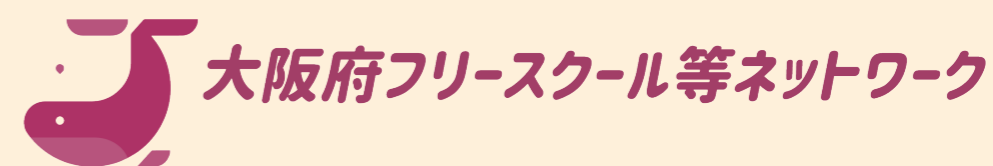
はらいふも含めて、多くのフリースクールは、不登校の子どもたちと向きあう中で見えてくる社会的な課題を感じながらも、発信し改善するまでには至りません。大阪府下のフリースクールとしての総意を作っていくことが重要ではないかと思っています。

学校や教育・福祉行政の方からしても、民間団体であるフリースクールとどんな風に連携していいのかわからない。そんなジレンマが起こっているように思います。そんなこんなを考え、できることを模索していたら、ネットワークの代表になってしまいました。

大阪府下の教育委員会の方などとお話する機会も大変増えてきました。子どもたちと関わる現場も絶対に手放したくないので、なかなか大変ですが…どうか助けてやってください。



<https://osakafs.net/>



スタッフ、  
こんな感じで働いています

### フリースクールに来ることが難しくなってしまった子ども

理由はそれぞれ：体調が整わない、気分が整わない、  
もやもやしてるけど説明はできない

コンタクトを取る方法：LINE、zoom、電話、訪問

訪問について気をつけていること：

- ・日程（本人のスケジュールの中で無理がないか、学校等の訪問と連続してないかなど）
- ・時間帯（本人の体調や気持ちの余裕がありそうか、起立性調節障害の子なら夕方など）
- ・場所（玄関先、近くのコンビニの駐車場、ラーメン屋に食べに行くなど）
- ・名目（送迎時に顔を見にきた、誕生日のケーキ作った、バレンタインのお菓子や餅つきのお餅を持ってきた、ラーメン食べたくない?など）
- ・保護者の同席（本人の負担がなさそうなら、別室に引いてもらう）
- ・人選（どのスタッフが行くか、単独か複数か）

#### ・例えばこんなケースがあったよ・

歌うことやゲームは好きだけど、他の子どもとのコミュニケーションでかけちがいが多い中学生。  
ゲームやバンドに誘われるも、度々モヤモヤしてしまうらしく、はらいふに来なくなる時期がある。  
「もう二度と〇〇の歌声は聞けへんの?」「まあ…」という会話をしたことも。  
原因は話さないが、家で大きな声を出したり壁を叩いたりという表現になり、母が心配している。

母と：こまめにLINEや直接面談にてコミュニケーションをとった。

家庭、医療、学校、はらいふでの状況や情報を一緒に整理することで、「今できること」を考え続けられた。

本人と：（負担にならぬように母と相談しながら）LINE、訪問、興味のあるイベントを企画・案内。

「送迎のついで」という名目で、顔を見ない日が開き過ぎないようにした。

進路の話で個別面談はしつつ、話をするより一緒に時間を過ごすことを優先した。



はらいふに来る時期と来ない時期を繰り返しつつ、スタッフとも他の生徒とも関係性を保った。

卒業式のイベントでは、みごとな歌声を聞かせてくれた!

### 保護者面談

- ・入会時の面談以降、定期的な面談や懇談は設定していない
- ・普段はLINEや送迎時のやり取りが中心
- ・保護者かスタッフが、子どもの体調や進路などについて気になった時に、面談を調整している
- ・定期的にリクエストがある保護者もいらっしや、できる限りお受けしている

#### ・例えばこんなケースがあったよ・

起立性調節障害の診断があり、不安が高く、体調と気持ちが一致して外出することが難しい中学生。  
本人はオンライン上でスタッフや他の生徒とつながり、整った時に来所するペースができています。  
母も不安が高く、子どものことで色々調べたり配慮しているが、一緒になって不安の渦が高くなりがち。  
本人が決めた進路について、母は「自分をわかっていないのでは」「失敗したら余計に体調が悪くなる」と心配している。

本人と：進路に関する面談で、毎回調べることや検討することなど、意義を明確にするようにした  
面談は本人が来やすい午後の時間帯で、興味のある企画（ボードゲームなど）と同日に設定した  
LINEやオンラインで情報を共有したり、同じ進路を選んだ卒業生と話せる日を調整した  
本人から援助の要請がないことについては先回りせず、いつでも話せる関係性を維持した

母と：1～2ヶ月に1回のペースで面談の要請があったので、できる限り調整した  
面談では主に母の報告を伺い、母が頑張り過ぎないよう、本人との距離を保てるように確認した  
「本人が動かないから」「私がどこまでやるべきか?」「こんなにサポートしてるのに」という気持ちを聞きながら、  
本人の具体的な言動や様子から、客観的に状況を整理することを一緒にした



併願校受験の前日、母の不安と不満が高まったが、本人に指摘するより先にはらいふにLINEをくれた。

電話で話すと、母も本当は本人に任せて待つしかないことに気付いており、改めて一緒に確認できた。

その後、本人は第一希望の学校に進学し、今は寮と学校の生活を頑張っていると報告してくれた!

### その他にも…

- ◆生徒と一緒に自転車やバイクを修理。通信制高校が終わった後にも、はらいふに顔を出せるように
- ◆学校の三者懇談にはらいふスタッフが同席。本人、保護者、先生のかげ違いを最小限に
- ◆自宅と複数の拠点での生活を送る子どもも割といる。送迎やそれぞれとのコミュニケーションを大事に
- ◆ゲームはプロジェクターを利用することで「見える化」「全体化」
- ◆クラフトコーラ作りしたい?→すぐにスパイス発注、すぐ作る!
- ◆夜中に真剣に遊戯王のデッキを組むれいちえる

子どもの熱量を逃さぬように!

子どもたちと楽しめることを毎日考えています!



## 情報発信しています

### フリースクール WEB

<https://www.halife.me>

### ブログ「はらいふにつき」

<https://blog.halife.me/>

### instagram

<https://www.instagram.com/halife.me/>

### Facebook

<https://www.facebook.com/core.halife/>

はらいふの日常を  
こどもたちやボランティアと  
一緒に更新中！



## はらいふのマンスリーサポーターのお願い

はらいふへの寄付は”すべて”、経済的理由でフリースクールに通うことを諦めてしまう10代のために使われます。

<https://www.halife.me/donation>



コミュニティハウス  
はらいふ

## 一般社団法人はらいふ

address 〒569-1051 大阪府高槻市原 91-13

TEL 072-668-6440

Mail [info@halife.me](mailto:info@halife.me)

LINE @halife